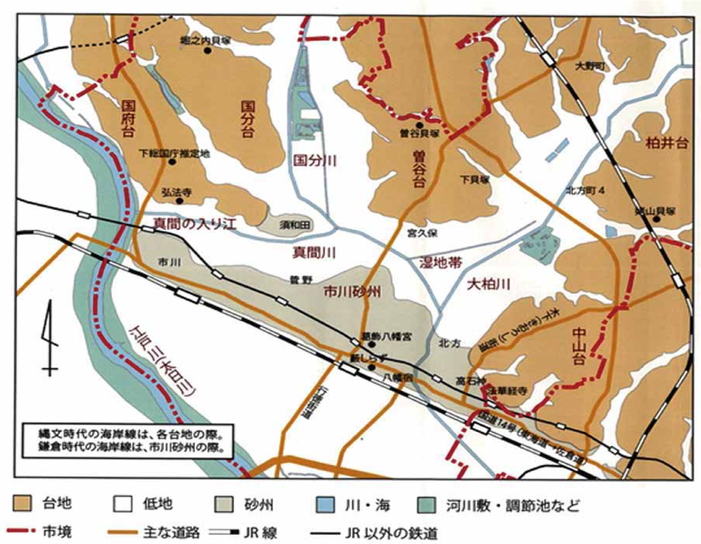
市川市八幡「この地の形成と特色」と「昔の風景」（「この地の歴史と見どころ」は裏面参照）



市川市域図（「市川市史自然編 -都市化と生きもの-」掲載図）を加工

「元亨の梵鐘」とその銘文の「前横……性動」部分を切り取った写真

【この地の形成と特色】（この地の成り立ち）

約6500～6000年前は「縄文海進」と呼ばれる海面が高い時代が続き、この地は海でした。当時の海岸線は、北部の下総台地の際で、そこには「堀之内貝塚」「姥山貝塚」「曽谷貝塚」などの名高い貝塚遺跡が存在します。

その後の気候変動で海面が徐々に下がると、この地は東京湾の奥まった所であるため、波で運ばれた土砂が流出することなく堆積していき、「市川砂州」が約1000 年前までに形成されました。当時の海岸線はＪＲ総武線と国道 14 号の間辺りと想定されます。

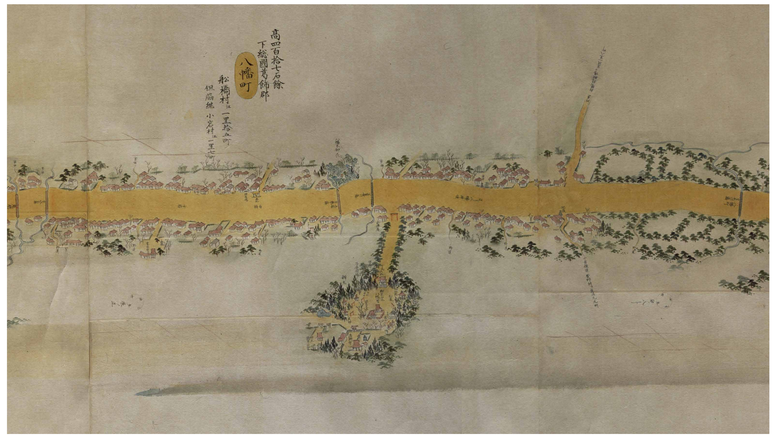
市川砂州と国府台台地の間にある真間 (古語で崖の意味) には江戸川（旧名：太日川）が入り込んで「真間の入り江」が生まれました。下総台地からの水は国分川、大柏川として集められますが、市川砂州で止められ、須和田(スワは古語の一説に湿地）、菅野（スゲが繁る野）、宮久保（窪）と湿地の性質を示す地名が続きます。大正期に川筋を整え、この湿地を耕地として整備した事業の完成記念碑が踏切際にある「改耕碑」です。

【鎌倉時代の風景】

元亨元 (1321) 年紀の銘文がある「元亨の梵鐘」の銘文の一節に「前横巨海　後連遠村　魚虫性動」（前には巨海が横たわり、後ろには遠村が連なり、魚虫は性動す（魚や爬虫類を含む虫が生き生きと活動））があり、この地の南側に東京湾が広がっていた当時の情景が目に浮かびます。

【江戸時代の風景】

市川砂州上に奈良時代に制定された東海道は、江戸時代も房総の大名の参勤交代の街道として、道中奉行支配下の八幡宿が設けられました。文化 3(1806) 年に幕府が作製した地図を見ると、葛飾八幡宮、藪知らず、東昌寺、行徳街道や、街道沿いの松並木や梨園の境界として植えられた松の様子が見て取れます。



「五街道其外分間絵図並見取絵図＿水戸佐倉道分間延絵図」(国立博物館蔵、重要文化財)

【大正末～昭和前期の葛飾八幡宮】

葛飾八幡宮所蔵の鳥瞰図です。京成電車の線路（大正 4 年敷設）、地図上の「縣社」（大正 12 年制定）の文字が、描かれた年代を物語ります。鎮守の森として鬱蒼としていた様子、当時の建物の配置もわかります。

永井荷風も『断腸亭日乗』の昭和21年5月8日条に「境内広くして松杉鬱然たり」と記述しています。

葛飾八幡宮所蔵の鳥瞰図